

スノーボード・アルペン 斯波南高山形再発進

スノーボードのワールドカップ(W杯)が今月開幕、アルペン男子日本代表の斯波正樹(ジャパンファクトリー・山形南高山)は、初戦の平行回転で過去最高の11位に入った。夏場は例年と異なり、陸上トレーニング中心で基礎体力向上を図って迎えたシーズン。4年後のソチ五輪を見据えて第一歩を踏み出した日本人トップランカーに、今季の意気込みを聞いた。

◇ ◇

「今季を迎えるに当たってどのようにオフシーズンを過ごしたか。」

まずは6月の2週間、フランスに行き、個人的に交渉して、フランスナショナルチームの練習に加えてもらった。全日本だけではなく、足る練習量をそこで埋めた。氷河で世界選手権のメタリストとタイムを競えた。夏場は陸上トレーニングをメインにした。筋力トレーニングだけでなく、蔵王の山を走ったり、フットサルをしたりした。柔軟性のアップや体のゆがみの矯正にも取り組んだ。4年後の五輪を目指すと、1年目にも一度土台作りをし

ソチ見据え足場固め

夏は体作り。W杯初戦で成果と課題が見えた。

ようと考えたからだ。いつもより滑らない時期を増やしたが、計画通りにトレーニングが進み、W杯前の練習で滑った感触は良かった。

13日目の参戦となるW杯。初戦はどうだったか。

タイムを狙ったわけではなく、ターンの質やメンタルの調整などをやるべきことをやった。その結果としてタイムが出た。決勝の1

回戦は)第1旗門でリズムが取れなかった。板にロス

なく力かける技術はまだ必要な部分と感じた。ただ

疲労を感じなかったのは今までと違った。去年の1戦

目は緊張によるフラインクだったが、今回はW杯の空

気にも慣れてきたと思う。

1今季の目標を。

安定して16位以内、つまり決勝に進出すること。昨

季は決勝進出が(2月の)1回だけだったが、今季は

1戦目でクリアできた。目標に近づけそうで、これ

からが楽しみだ。4年後に五輪でメダルを取るため

に、今シーズンは地に足をつけて戦い、来季は8

位以内と目標を上げていきたい。

と戦。昨季はバンクーバー冬季五輪日本代表候補として初優勝。170年3月の全日本選手権で初優勝。1986年4月26日生まれ、24歳。山形市出身。

し・まさき 蔵王一中時代、ジュニア日本代表としてシニエア世界選手権に出場し、日本人初優勝。山形南高山卒業後、05年からカナダに留学し、08～09年シーズンから日本代表としてW杯に参



ワールドカップ今季初戦で過去最高の11位に入った斯波正樹(ジャパンファクトリー・山形南高山)